

## 小野公一先生，久保俊郎先生退職記念号の発刊にあたり

経営学部長 高石光一

小野公一，久保俊郎先生は，2021年3月31日をもって，亜細亜大学経営学部をご定年により退職されます。経営学部は，両先生のご退職を記念して『経営論集』第56巻第1・2号合併号を定年退職記念号として刊行し，これを謹んで献呈させていただく次第です。

小野公一先生は，1976年亜細亜大学大学院経営学研究科修士課程を修了し，同博士課程を1980年に単位取得し満期退学されました。1983年に亜細亜大学経営学部に講師として着任され，1987年に准教授，1993年教授に昇進されました。学内行政として，経営学経営学科において経営研究所長，『経営論集』編集委員会運営主任，経営学研究科では学務委員，研究科委員長，アジア・国際経営戦略研究科では大学院委員，さらに全学での地域産学公連携推進会議委員，教務委員長，教育活性化委員会副委員長，新大学院検討委員会委員，アジア・国際経営戦略研究科設置準備委員会委員，等様々な役職を通して今日に至るまで本学の発展に大変ご尽力いただきました。

小野先生の研究活動の中心は産業・組織心理学であり，人的資源管理との接点の領域で，職務満足感やキャリア発達，とりわけ私的な対人関係におけるキャリア発達支援であるメンタリングについて，働く人々を対象にした質問紙や面接法による実証的な研究に取り組まれてきました。ご研究の業績としては，1997年「ひと」の視点からみた人事管理」，2003年「キャリア発達におけるメンターの役割」，2011年「働く人々の well-being と人的資源管理」など多数の単著を出版されています。学会論文や研究レポート等も数多く，小野先生は働く人々に肉薄する真の研究者であります。1992年には，日本労務学会研究奨励制度による表彰，2003年，日本応用心理学会賞受賞，そして，2014年には『生きがい研究』創刊20周年記念優秀論文賞を受賞されています。小野先生は日本労務学会や日本心理学諸学連合会などの学会の役職をこなされ，特に，産業・組織心理学会においては1998年から現在まで常任理事として，その間2010年から2013年までは会長の要職を務められています。

小野先生は，本学に就任する以前は，大手の調査会社で消費行動に関する市場調査や自治体の街づくりに関する世論調査，中央官庁のデータを駆使した労働統計などの業務に携わり，本学就任後も，農水省の外郭団体の特に農村の活性化に関する地域づくりに関する検討会や武蔵野市の男女参加社会に関する委員会などに協力されるなど，実社会にも積極的に関わる活動を展開されてきました。

小野先生のお名前は，私が亜大に移籍する以前，というより中小企業支援機関に勤務していた

40年以上も前から存じていました。1993年に「職務満足感と生活満足感」という現在のワークライフバランスの先駆けとなるご著書を発刊し、産業・組織心理学の世界をリードされてきました。研究者の鑑であり、その姿勢は学生の教育にも現れていたと思います。小野先生は、ゼミでの研究指導に熱心で毎年2回のゼミ合宿を行い、35年間、アジア祭に研究発表を続けただけでなく、2・3期の例外を除き毎年しっかりしたゼミ論集の作成を継続されてきました。察するに、いろいろなご苦労があったと思います。小野先生、おつかれさまでした。

久保俊郎先生は、1978年に京都大学農学部農林経済学科をご卒業した後、1984年に筑波大学大学院社会工学研究科博士課程にて単位取得し満期退学されました。1986年に亜細亜大学経営学部にて助手として着任され、翌年に講師、1990年助教授、1998年に教授に昇格されました。

学内行政としては、経営学部経営学科にて入試委員、教務主任補佐、就職委員、全学教育課程協議会委員、学生委員、教務主任、また経営学研究科においては、学務委員、自己点検評価実施委員を務められ本学の発展に大変ご尽力いただきました。

久保先生の研究領域は経営財務論、特に数理理論がご専門です。企業のエージェンシー理論、情報の非対称性下の契約モデル、ナイト的不確実性モデルなどの研究を経て、財務柔軟性の観点から経営財務論を見直すことを試みていらっしゃいます。ご業績として、2015年「経営資産ポートフォリオ選択決定」、2009年「財務柔軟性と資本調達」、2007年「投資案選択基準再考」、2006年「確信と流動性の価値」等の論文を執筆されています。

先述のとおり久保先生は経営財務論がご専門であり「簡単な数理モデルを通して経済現象を見る」をモットーとしていますが、先生の論文等を拝見しますと、数式らしきものがズラッと並び門外漢の私には正直、難解です。しかし、久保先生は大学院修了後、郵政省と日本電信電話公社(後のNTT)関連の情報通信総合研究所等の研究員としても精勤され、本学就任後も金融機関で証券アナリスト試験やコーポレート・ファイナンスの講師、さらに、イリノイ大学 Center for International Education and Research Center in accounting や米国ミシガン大学 ビジネス・スクール Mitsui Life Financial Research Center で客員研究員などを務めるなど国内外でも大変なご活躍をされました。

それから、久保先生は、私が亜細亜大学から内定をいただき初めてお会いした先生でした。一見、浅黒く短髪で白い髭をたくわえた面持ち、黒縁のメガネから光る眼が恐ろしかったのですが、次の瞬間には、たっぷりのユーモアと遠慮しがちな語り口から、久保先生の優しさが爆発し、その時まで持っていた私の亜大での教員生活の不安が一気に消し飛びました。久保先生、本当にありがとうございます。

小野先生、久保先生はご退職されましても、ますますご研究や社会活動に注力されることと察しますが、これまでの両先生のご貢献・ご指導に教員一同を代表し感謝の意を表したく存じます。

最後に、前頁、大島学長が「贈る言葉」に記されたように、今年度経営学部経営学科では小野公一、久保俊郎先生の他に小山良先生、西村康一先生、オコーナー・ウィリアム（O'Connor William）先生、また、ホスピタリティ・マネジメント学科の尾上典子先生が退職されます。小山先生はマーケティング、西村先生はマネジメント・サイエンス、オコーナー先生は英語学、尾上典子先生は英米・英語圏文学などの領域で、それぞれ優れた業績をあげられ、大学、地域に多大な貢献をされてきました。

コロナ禍の中で、先生方に実際にお会いし、両手を握り感謝の言葉を伝えられないことが残念ですが、「長い間本当にお疲れさまでした。本当にありがとうございました！！」

2021年1月吉日